

## 6 数値目標

### (1) 健康寿命の延伸

指標		現状値		目標値		出典
		数値	年度	数値	調査年度	
健康寿命	男性	71.58年 (45位)	R1	73.08年	R7	国民生活基礎調査 (3年ごとに公表)
	女性	74.74年 (41位)		76.24年		

※「健康寿命」は、調査対象者の主観的な健康感に基づき、日常生活に制限のない期間の平均を算出したもの。調査は3年ごとに実施されており、本計画期間中においては、令和7年調査(令和9年公表)が最新値となる。

※各指標の年度は、調査年度。

### (2) 虚血性心疾患の年齢調整死亡率の低減

指標		現状値		目標値		出典
		数値	年度	数値	調査年度	
虚血性心疾患の年齢調整死亡率(10万人あたり)	男性	70.5人	R3	低減	R9	人口動態統計 (翌年度2月に公表)
	女性	25.0人		低減		

※各指標の年度は、調査年度

【参考】年齢調整死亡率の算出方法(出典:厚生労働省「人口動態統計 確定数 用語及び比率の解説」抜粋)

$\text{年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \left[ \begin{array}{l} \text{観察集団の各年齢} \\ \text{(年齢階級)の死亡率} \end{array} \right] \times \left[ \begin{array}{l} \text{基準人口集団のその年齢} \\ \text{(年齢階級)の人口} \end{array} \right] \right\} \text{の各年齢(年齢階級)の総和}}{\text{基準人口集団の総数}}$	<p>(参考)</p> <p>死亡率は年齢によって異なるので、国際比較や年次推移の観察には、人口の年齢構成の差異を取り除いて観察するために、年齢調整死亡率を用いることが有用であり、年齢調整死亡率の基準人口については、以下の年次を使用している。 なお、計算式中の「観察集団の各年齢(年齢階級)の死亡率」は、1,000倍(死因別の場合は100,000倍)されたものである。</p> <p>～平成元年：昭和10年(1935年)の性別総人口(都道府県別は昭和35年(1989年)(1960年)の総人口)</p> <p>平成2年～令和元年：昭和60年(1985年)モデル人口(昭和60年(1985年)国勢調査(1990年～2019年)の日本人人口を基にベビーブーム等の極端な増減を補正し、1,000人単位で作成したもの)</p> <p>令和2年～(2020年)：平成27年(2015年)モデル人口(平成27年(2015年)国勢調査の日本人人口を基にベビーブーム等の極端な増減を補正し、1,000人単位で作成したもの)</p>	<p>基準人口－平成27年(2015年)モデル人口－(単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢階級</th> <th>基準人口</th> <th>年齢階級</th> <th>基準人口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0歳</td> <td>978 000</td> <td>50～54歳</td> <td>8 451 000</td> </tr> <tr> <td>1～4</td> <td>4 048 000</td> <td>55～59</td> <td>8 793 000</td> </tr> <tr> <td>5～9</td> <td>5 359 000</td> <td>60～64</td> <td>9 135 000</td> </tr> <tr> <td>10～14</td> <td>5 711 000</td> <td>65～69</td> <td>9 246 000</td> </tr> <tr> <td>15～19</td> <td>6 053 000</td> <td>70～74</td> <td>7 892 000</td> </tr> <tr> <td>20～24</td> <td>6 396 000</td> <td>75～79</td> <td>6 306 000</td> </tr> <tr> <td>25～29</td> <td>6 738 000</td> <td>80～84</td> <td>4 720 000</td> </tr> <tr> <td>30～34</td> <td>7 081 000</td> <td>85～89</td> <td>3 134 000</td> </tr> <tr> <td>35～39</td> <td>7 423 000</td> <td>90～94</td> <td>1 548 000</td> </tr> <tr> <td>40～44</td> <td>7 766 000</td> <td>95歳以上</td> <td>4 23 000</td> </tr> <tr> <td>45～49</td> <td>8 108 000</td> <td>総数</td> <td>125 319 000</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：年齢調整死亡率の算出では、基準人口(平成27年(2015年)モデル人口)の「0歳」、「1～4歳」を分離せずに「0～4歳」として使用している。</p>	年齢階級	基準人口	年齢階級	基準人口	0歳	978 000	50～54歳	8 451 000	1～4	4 048 000	55～59	8 793 000	5～9	5 359 000	60～64	9 135 000	10～14	5 711 000	65～69	9 246 000	15～19	6 053 000	70～74	7 892 000	20～24	6 396 000	75～79	6 306 000	25～29	6 738 000	80～84	4 720 000	30～34	7 081 000	85～89	3 134 000	35～39	7 423 000	90～94	1 548 000	40～44	7 766 000	95歳以上	4 23 000	45～49	8 108 000	総数	125 319 000
年齢階級	基準人口	年齢階級	基準人口																																															
0歳	978 000	50～54歳	8 451 000																																															
1～4	4 048 000	55～59	8 793 000																																															
5～9	5 359 000	60～64	9 135 000																																															
10～14	5 711 000	65～69	9 246 000																																															
15～19	6 053 000	70～74	7 892 000																																															
20～24	6 396 000	75～79	6 306 000																																															
25～29	6 738 000	80～84	4 720 000																																															
30～34	7 081 000	85～89	3 134 000																																															
35～39	7 423 000	90～94	1 548 000																																															
40～44	7 766 000	95歳以上	4 23 000																																															
45～49	8 108 000	総数	125 319 000																																															

### <参考指標> 平均自立期間の延伸

指標		現状値		目標値		出典
		数値	年度	数値	年度	
平均自立期間の延伸	男性	79.74年	R2	延伸	R8	健康政策課調べ
	女性	84.39年		延伸		

※各指標の年度は、調査年度

【参考】

R2 男性：鳥取県 79.74年、東部圏域 79.89年、中部圏域 79.49年、西部圏域 79.68年(差：0.4年)

R2 女性：鳥取県 84.39年、東部圏域 84.33年、中部圏域 84.20年、西部圏域 84.51年(差：0.31年)

※「平均自立期間」は、要介護認定(要介護2～5の認定者数)に基づき、日常生活動作が自立している期間の平均を算出したもの。